



ルーシーとニッキー

1. はじめに

令和元年に、秋田市にお住まいの篤志家の方から、「動物園のために使ってほしい」といただいたご寄付を活用して、今後国内では入手が難しくなるとされるフタコブラクダとホッキョクオオカミ(当初の予定はシンリンオオカミ)を海外から導入することになりました。

当初、令和3年度中に動物を導入する予定でしたが、新型コロナウイルスなどの影響により搬入の見通しが立たなくなり、延期となりました。時間はかかりましたが、令和4年4月にオオカミが、8月にはラクダが無事に搬入されました。

この特集では、大森山動物園で初めて飼育するホッキョクオオカミにスポットを当てて、みなさんに紹介したいと思います。

2. ホッキョクオオカミとは

ホッキョクオオカミは「幻の白いオオカミ」と呼ばれており、身体が真っ白な長い毛に覆われています。人を寄せ付けない極寒の地に住むオオカミで、その生態はわかってい

ないことも多くあります。

ホッキョクオオカミの生息地は、北米大陸の北端から北極にかけての地域やグリーンランド北部で、最低気温はマイナス50度にまでなります。ここで暮らせるのは、この寒さに適した数種類の生き物だけです。アラスカなど一部地域ではまだ個体数が比較的多いものの、他の地域では、彼らが生きていくのに十分な食料や生息地が不足しているため、個体数が非常に少なくなっています。

3. 導入した3頭について

2022年4月16日に、3頭の若いホッキョクオオカミが2つのドイツの動物園から来園しました。オスのムーン(2歳)と、姉妹のルーシー(姉、2歳)とニッキー(妹、1歳)です。



ムーン

ムーンは身体が大きく、オスらしいカッコイイ風貌をしています。表情はとても優しく、人懐こい性格です。好奇心も旺盛で活発です。ルーシーは、落ち



ニッキー(左)とルーシー

着いた慎重な性格で、上品さの漂う知的美人です。ニッキーは妹らしい、快活さと人懐こさに好奇心も兼ね備えたアクティブな女の子です。姉妹はとても仲が良く、一緒に展示場に出ると大好きな水場でじゃれあったり、展示場を走り回ったり、とても楽しそうです。

清掃時、網越しに顔を合わせるムーンとも今のところ相性は悪くはなさそうで、ヒンヒンと鼻を鳴らしてコミュニケーションをとっています。

4. 展示までの道のり

4月に大森山に到着してから、外展示場に出るまでの約2か月。猛獣舎の中では、担当者とオオカミたちの間でしっかりと絆づくりをしていました。オオカミはとても警戒心が強く、神経質で賢いため、人間に対して不信感を抱くと距離を取るようになります。動物園の動物たちは、どの種もそのような特性は持っていますが、オオカミは特にそれが顕著に表れるということを初めて実感しました。動物が人間に対して不信感を抱くと、飼育する上でとても不便なので、まずは距離の近い室内で、担当者に慣れてもらうことから始めました。



飼育員からエサをもらうムーン

最初のステップは担当者から餌をもらうことです。以前展示していたシンリンオオカミのジュディーは、担当が代わったばかりの頃、付き合いの長い飼育員からしかエサを受け取ってくれませんでした。ホッキョクオオカミたちはどうかとドキドキしましたが、ここは3頭とも問題なくエサを受け取ってくれました。

次のステップは部屋の移動です。飼育員がオオカミと一緒に空間に入るわけにはいきませんので、部屋を掃除する際は、オオカミに自ら部屋を移動してもらわなければなりません。ここで最初のステップで行った「飼育員から直接エサをもらうこと」が生きてきます。オオカミが部屋から通路に出るように飼育員がエサで誘導し、部屋の扉を閉めて掃除をします。好奇心旺盛なムーンとニッキーは難な

くクリアしましたが、警戒心が強く慎重なルーシーは、部屋から移動することに抵抗を感じていました。そして移動した後に自分たちの部屋の扉が閉められる



室内から展示場への移動

ことにも嫌悪感と警戒心を強めていきました。それでも、最初に訓練した「飼育員から直接エサをもらうこと」はしっかりと染みついていたようで、警戒しながらも移動してくれました。

最後のステップは展示場との行き来です。警戒心が強く神経質なオオカミは、開放的な展示場に出ると寝室には帰って来なくなる可能性があるかと聞いていました。室内の移動がスムーズに出来ていたムーンとニッキーは心配していませんでしたが、心配の種はルーシーでした。二度と室内に戻って来なかったらどうしよう、とハラハラしていましたが、初めての展示場デビューのあと、きちんとニッキーと一緒に戻って来てくれました。「エサは室内で食べるもの」「飼育員が室内でくれるもの」ということをきちんと学習できていたようで、警戒しつつも展示場の行き来が可能になりました。

5. 動物との距離が近いガラス展示

2021年秋、オオカミ展示場に新たにガラス面が設置され、今までは網越しでしか見られなかったオオカミを、より間近に感じられるようになりました。



ガラスに鼻をこすりつけるムーン

活発なホッキョクオオカミがガラス越しにさまざまなアクションをしてくれるので、3頭が泥だらけの前脚でガラス



来園者に興味津々

面にお絵かきする様子や、興味津々で近寄ってくる表情をじっくり観察してもらうなど、いろいろな楽しみ方を見つけてほしいと思います。